

ふりがな 氏 名	おおたけ さとこ 大嶽 さと子	職 名	准教授
取 得 学 位	博士(心理学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	子どもの心理学、社会的養護 2、子ども家庭支援論、保育実習指導 1B(施設)、保育実習 1B(施設)、保育者養成基礎講座・発展講座・実践講座、心のしくみ、障がい児心理学		
所 属 学 会	日本社会心理学会、日本発達心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本教育心理学会、日本カウンセリング学会、東海心理学会、日本保育学会、日本小児精神神経学会、日本質的心理学会、日本保育者養成教育学会、人間福祉学会、日本子育て学会、日本子ども家庭福祉学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
「保育実習指導 1B(施設)」における福祉施設職員講話の企画・実施	平成 29 年 ～	社会福祉施設で働く卒業生を講師として招き、施設実習を前にした学生に対して講話を行った。福祉施設での職員の職務の説明や実習生を受け入れるにあたっての職員としての考え、学生時代の実習経験について語ってもらった。これにより、学生は福祉施設に対する理解を深め、実習への不安が軽減されることで、より意欲的に実習に臨めるようになっている。
「保育実習指導 1B(施設)」における「保育実習 1B(施設)」を振り返っての感想文集の企画・作成	平成 29 年 ～	「保育実習 1B(施設)」後の事後指導として、実習を振り返って受講者に感想文を課し、感想文集として例年冊子にしている。受講生が自らの実習を包括的に振り返るとともに、翌年以降に参加する学生が実習に向けての準備をするための資料として位置付けている。過去に実習に参加した学生がどのように実習に向けての学びを進めたのかということや、実際に行ってみてどうであったのかを把握することができ、事前準備の学習がよりスムーズに行うことが可能となっている。
「保育実習指導 1B(施設)」における福祉施設見学の企画・実施	平成 29 年 ～	愛知県内の社会福祉施設見学に学生を引率し、施設内を見学するとともに、施設の現状や施設での保育士の役割について職員の方から語ってもらった。これにより、学生が福祉施設への理解を深め、施設実習に関する学びを始めるにあたって、学生はより意欲的に興味関心をもって臨めるようになっている。
特定非営利団体アスペ・エルデの会日間賀島合宿コーディネーター(発達障害児のための合宿による海洋活動体験と発達支援開発プログラム事業)	平成 29 年 8 月	小学生から高校生までを対象とした発達障害児のための合宿に参加し、プログラムディレクターとして稼働した。合宿では、生活を共にする中で、海遊びやイルカとのふれあい体験などの海洋活動体験と、子どもたちそれぞれが抱えている発達課題をテーマとし、発達支援プログラムが実施された。
「保育実習の手引き(第 11 版)」の作成 名古屋女子大学短期大学部保育学科	令和 2 年 9 月	保育実習の意義や目的、実習に向けて準備すべき事柄をまとめた。実習記録の様式と、記入の際の注意事項も掲載しており、名古屋女子大学短期大学部保育学科における保育実習 1A・1B・2 で使用する教科書として位置

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		づけられている。 著者:大嶽さと子・平澤節子・山本麻美・島澤ゆい・上野真由美

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	未来を見据えた保育者を目指して (ISBN978-4-907952-17-4)	共	平成 30 年 2 月	鳴海出版	著者:伊藤理絵・上野真由美・大嶽さと子・小田香里・川上輝昭・河合悦子・河合玲子・神崎奈奈・紀藤久美子・児玉珠美・古山萌衣・佐々木昌代・佐々木基裕・島澤ゆい・杉山実加・高井芳江・遠山佳治・那須野康成・藤巻裕昌・二村郁美・松田ほなみ・向井享子・村松麻衣・安井健・山本麻美・幸順子 全 271 ページ中、 ・第 3 部第 3 章「自我の芽生えと人間関係の発達」(pp93-100 分担執筆) ・第 3 部第 4 章「生活と遊びを通じた学びの理解」(pp101-108 分担執筆) ・第 3 部第 5 章「保育・教育実践の評価法」(pp109-114 分担執筆) ・第 6 部第 3 章「保育実習(施設)における理論と実践の統合」(pp246-254 分担執筆)
	公認心理師基礎用語集 —よくわかる国試対策キーワード 117—	共	平成 30 年 8 月	遠見書房	(著者)松本真理子・永田雅子・石川佳奈・板倉憲政・梅本貴豊・浦田有香・大嶽さと子・緒川和代・織田万美子・葛文綺・加藤仁・加藤容子・川瀬正裕・清河幸子・解良優基・鈴木亮子 他 (担当) ①社会・集団・家族」のうち ・1.対人関係(pp65) ・3.人の態度・行動(pp67)
	子どもの発達の連続性を支える保育の心理学	共	令和元年 5 月	教育情報出版	(著者)浅井拓久也・室谷雅美・木村拓磨・高木玉江・大嶽さと子・今福理博・福山寛志・西村薫・烏丸佐知子・松田久美 他

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
著書					(担当)第4章第3節「基本的信頼感は、どのように形成されるのでしょうか」(pp78-81)
論文	乳児接触における学生のマザリーズの学習効果に関する研究—音声分析に焦点を当てて—	共	平成30年5月	総合科学研究,第12号	児玉珠美・神崎奈奈・ <u>大嶽さと子</u> pp11-18
	ママ友に対する育児期の母親の意味づけに関する探索的研究	単	令和4年3月	人間福祉学会誌,第21巻第2号	pp87-93
学会発表	保育者養成課程学生のマザリーズの表出に関する研究1—指導法の検討—(口頭発表)	共	平成29年5月	日本保育学会第70回大会(川崎医科大学)	児玉珠美・神崎奈奈・ <u>大嶽さと子</u> pp365
	保育者養成課程学生のマザリーズの表出に関する研究2—学習効果の検討—(口頭発表)	共	平成29年5月	日本保育学会第70回大会(川崎医科大学)	神崎奈奈・児玉珠美・ <u>大嶽さと子</u> pp366
	保育者養成課程学生のマザリーズの表出に関する研究3—表出困難な学生に焦点をあてた検討—(口頭発表)	共	平成29年5月	日本保育学会第70回大会(川崎医科大学)	<u>大嶽さと子</u> ・児玉珠美・神崎奈奈 pp986
	自己意識と社会的スキルが自尊感情に及ぼす影響—多母集団同時分析による性差の検討—(ポスター発表)	共	平成29年10月	日本教育心理学会第59回大会(名古屋大学)	<u>大嶽さと子</u> ・吉橋由香・谷伊織・永田雅子 pp110
	小中学生版臨床用セルフモニタリング尺度の検討(ポスター発表)	共	平成29年10月	日本教育心理学会第59回大会(名古屋大学)	谷伊織・吉橋由香・ <u>大嶽さと子</u> ・永田雅子
	発達障害児を育てる母親は、ママ友関係の中で何をしようとしているか(口頭発表)	単	平成29年11月	人間福祉学会第18回大会(中部学院大学)	pp22
	保育者養成課程学生における乳児接触困難感に関する研究—情動的共感性・乳児接触経験との関連—(口頭発表)	共	平成30年3月	日本保育者養成教育学会第2回大会(共立女子大学)	<u>大嶽さと子</u> ・児玉珠美・神崎奈奈 pp80
	保育者養成課程学生のマザリーズ表出と精神的健康との関連(口頭発表)	共	平成30年3月	日本保育者養成教育学会第2回大会(共立女子大学)	児玉珠美・神崎奈奈・ <u>大嶽さと子</u> pp79
児童の自尊感情,セルフ・モニタリングおよびセルフ・コントロールの関連(ポスター発表)	共	平成30年9月	日本教育心理学会第60回大会(慶應義塾大学)	<u>大嶽さと子</u> ・吉橋由香・谷伊織・永田雅子	

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
学会発表	教師の認知した子どもの自尊感情の差異の検討—共起ネットワークによる自由記述の分析—(ポスター発表)	共	平成 30 年 9 月	日本教育心理学会第 60 回大会(慶應義塾大学)	谷伊織・吉橋由香・ <u>大嶽さと子</u> ・永田雅子
	児童のセルフモニタリングと学校生活との関連(ポスター発表)	共	令和元年 9 月	日本教育心理学会第 61 回大会(日本大学)	<u>大嶽さと子</u> ・谷伊織・吉橋由香・田倉さやか・永田雅子 pp604
	小学生のセルフモニタリングの発達的变化と安定感(ポスター発表)	共	令和元年 9 月	日本教育心理学会第 61 回大会(日本大学)	谷伊織・ <u>大嶽さと子</u> ・吉橋由香・田倉さやか・永田雅子 pp605
	育児期の母親にとって、ママ友はどのような存在か—面接調査の結果から—(ポスター発表)	単	令和元年 12 月	日本子育て学会第 11 回大会(白百合女子大学)	pp96-97
	男性保育者のマザリーズ表出特徴に関する研究(1)	共	令和 2 年 5 月	日本保育学会第 73 回大会(奈良教育大学)	<u>大嶽さと子</u> ・児玉珠美・神崎奈奈・宇都木昭 pp1281-1282
	児童の自尊感情と学校生活との関連—性別・学年による検討—(ポスター発表)	共	令和 2 年 9 月	日本教育心理学会第 62 回大会(浜松)	<u>大嶽さと子</u> ・谷伊織・永田雅子・吉橋由香・田倉さやか pp33
	乳幼児への語りかけ方「マザリーズ」とは何かⅡ—多様な視点での検討—(自主シンポジウム)	共	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会(富山大学・Web 開催)	(企画者)児玉珠美 (司会)佐々木典彰 (話題提供者)尾関恵子・ <u>大嶽さと子</u> ・神崎奈奈 (指定討論者)内山伊知郎 J-E-4
	男性保育者のマザリーズ表出特徴に関する研究(2)(ポスター発表)	共	令和 3 年 5 月	日本保育学会第 74 回大会(富山大学・Web 開催)	神崎奈奈・児玉珠美・宇都木昭・ <u>大嶽さと子</u> P-B-7-11
	小中学生の自尊感情とパーソナリティの関連(ポスター発表)	共	令和 3 年 8 月	日本教育心理学会第 63 回大会(Web 開催)	谷伊織・ <u>大嶽さと子</u> ・永田雅子 pp30
	コロナ禍におけるママ友関係に関する探索的研究—母親の抑うつ傾向を視点として—(ポスター発表)	単	令和 3 年 10 月	日本子育て学会第 13 回大会(Web 開催)	pp34-35
その他	PNPS(Positive and Negative Parenting Scale: 肯定的・否定的養育行動尺度)の開発	共	平成 30 年 12 月	金子書房	(著者)辻井正次(監修)・伊藤大幸(開発責任者)・浜田恵・村山恭朗(開発副責任者)・高柳伸哉・片桐正敏・野田航・上宮愛・野村和代・中島俊思・望月直人・田中善大・原田新・ <u>大嶽さと子</u> ・松本かおり・安田小響・野村昂樹・染木史緒・谷伊織・大西将史・岡田

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
その他					涼・松岡弥玲・瀬野由衣・藤田知 加子・林陽子・大西彩子・吉橋由 香・永田雅子・宮地泰士・野村香 代・神谷美里 他(マニユア ル:40 ページ 記録用紙 トドラ ー版:1 ページ 標準版:1 ペー ジ)